

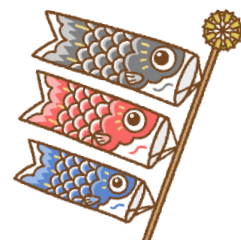


新年度が始まり1か月ほどが経ちました。進級、進学して、楽しいこと、大変なこと、頑張っていることなど話してくれるお子さまも多く、一生懸命な気持ちが伝わってきます。同時に、環境の変化や季節の変わり目等で大人も子どもも気付かないうちに疲れがたまりやすい時期でもあると思いますので、睡眠、食事等身体を労わりながら過ごしていきましょう！



5月5日のこどもの日が近づくと、色々な場所でこいのぼり目にする機会が増えてきます。こいのぼりを飾る理由は、中国の故事「登竜門」が由来とされています。登竜門は、中国の黄河上流にある流れの激しい滝(竜門)を登り切った鯉(こい)が竜になって天を登る物語です。そのため、鯉は大きな関門を乗り越えて立身出世する縁起物、成功への道を意味すると言われています。成功への道や子どもが“健康に強くたくましく育つように”という願いからこいのぼりを飾るようになったそうです。

販売されている一般的なこいのぼりは、黒・赤・青の3色です。黒が父、赤が母、青が子を意味していると言われています。今月のせいさく遊びでも、こいのぼりの製作をご用意しております。お子さまの健やかな成長を願って、ぜひお家でも飾ってみてくださいね♪



## 子ども用オムツの活用方法

乳幼児にとって必需品であるオムツですが、様々な活用方法があります。お子さまが大きくなり余ったりサイズアウトしたものは、緊急時などいざという時に役立ちます。



### 床掃除の雑巾やティッシュ代わりに

オムツを裏返して手にはめると、床に飲み物や水などをこぼした際の拭き掃除に利用できます。また、フローリングワイパーの代わりにもなるため床掃除にいかがでしょうか。

### 嘔吐物の処理に

オムツの両端を切って開いた状態で、汚物をふき取りそのまま捨てることができます。オムツに吸収性や厚みもあるため、病気や緊急時などいざという時に便利です。



### 止血(絆創膏代わり)に

出先で怪我をしてしまったけど絆創膏が手元にない時に、応急処置としてオムツの左右を切って当てると止血できます。災害時や避難時などいざという時にも役立ちます。

### 使用済み油の処理に

オムツのポリマー(高分子吸収剤)が液体を吸収してくれるため、揚げ物をした際の残り油の処理にも活用できます。ポリ袋などの中にオムツを入れた状態で油を捨てるとそのまま捨てるができます。





# 乳幼児から見える景色



生後数か月経つと、段々と周りの人や動きを目で追うようになり人の区別がつくようになっていきますが、一体どのような過程で見えるようになっていき、どのような景色が見えているのでしょうか。

## おおむね0～2か月

この時期は、“明るい・暗い”の区別ができる程度です。【広角弁】と言い、目の前の明暗を識別できる最低限の視力状態だそうです。視力は0.01～0.02ほどで、20～30cm くらいの距離にあるものをぼんやりと見ているそうです。この距離がちょうど、赤ちゃんを横抱っこした時の、赤ちゃんと保護者との顔の距離感に近いと言われています。この時期の乳児にとって、1番物事を識別しやすい距離感になります。なるべく近い距離で声をかけたりスキンシップをとったりすることで、少しずつ人やものを認識していきます。

## おおむね3～4か月

視力が0.04～0.08程まで発達し、ぼんやりとモノクロ程度でしか見えていなかった状態から、色が分かるようになっていきます。また、左右、上下に目線を動かし動くものを追う【追視】ができるようになります。お子さまをお預かりさせていただく中でも、保育士や兄弟が移動したり遊んだりしている姿を一生懸命目で追っている姿がかわいらしいです。顔の近くに玩具を持っていきゆっくりと左右に動かすとじーっと目線や顔を動かし追っていきます。この時期はメリーもおススメです。赤や青などの原色が識別しやすいため、玩具などは鮮やかではっきりとした色を選ぶ事でより視覚や脳への刺激に繋がります。

## おおむね5～8か月

両目でものを見る【両眼視】が発達し、立体感や距離感を把握できるようになっていきます。また、脳の情報処理能力の発達も大きく、目で見たものに合わせて手や指先を連動させて動かす【手と目の協調運動】という機能も身につけていきます。そのため、近くにある玩具やものに手を伸ばし触ったり掴んだりという動作も活発になっていく時期です。近くで顔を合わせたり玩具を置いてみたりしてお子さまとの関りを楽しんでみてはいかがでしょうか♪また、個人差はありますが人見知りも視力の発達と大きく関係しています。この時期になると視力がはっきりとしてくることで、人の顔の判別ができるようになるからと言われています。

## おおむね9か月～1歳

視力が0.2程まで発達し、人の表情や物の細かいところまで認識できるようになっていきます。また、両目で立体的にもものを見る【立体視】という機能も発達していきます。ハイハイやつかまり立ちで移動し様々なものを見て触れて、日常生活の中でたくさんの刺激を吸収していきます。

1歳を過ぎた後も視力の発達は続いていき、個人差はありますがおおよそ6歳頃に1.0前後まで見えるようになると言われています。

また、視力や見え方だけでなく、見えている視野も大人より狭いです。(右図6歳ごろの視野)  
大人は見えているものでも子どもの視界では見えていないものも多いようです。安全面なども気を付けて過ごしていきたいですね！

### 大人と子どもの視野の違い

